



守り育てる家づくり

## 冬の底冷え 「コールドドラフト」

冬場、すっかり暖房しているのに足元が寒い……。あなたも、そんな体験をしたことがありますか。それは「コールドドラフト」現象が起きているのかもかもしれません。

コールドドラフトとは、窓のガラスに触れて冷たくなった室内の空気が、暖房によって生じた下降気流に乗って部屋の低い位置に流れ落ち、床に沿って部屋中に広がる現象です。  
ガラス窓は、屋外から光を取り込む場所ですが、ガラスが外気に触れて冷たく

なり、室内の空気を冷やしてしまいます。この効果によって、暖房時の室内の熱の実に50%以上が窓ガラスから室外に逃げているといわれています。

### デメリット

コールドドラフトのデメリットは、いつまでも足元が寒いお部屋ということだけではありません。例えば、電気代。足元の冷えを解消しようとエアコンの設定温度を上げれば上げるほど、電気代が高くなってしまいます。

また、結露も発生させてしまいます。室外と室内の気温差によって発生する結露は、垂れた水滴によってカーテンや壁紙を濡らしてしまい、これが何度も繰り返されると、湿気を多く含んだ場所にカビが生え、住む方の健康にも害を及ぼしかねません。

コールドドラフト現象は何も対策をしなれば、家計や健康面に良くない影響が出てしまうのです。

### 「二重窓」で省エネ効果

コールドドラフトを防ぐにはガラス窓の断熱性能を高めることが効果的です。

そこでご紹介するのが「二重窓」。二枚のガラスの間にできる空気層が壁のような役割を果たし、断熱はもちろん、防音の効果も生みます。結露も軽減し、カビやダニの発生も抑えられます。  
ガラスの素材はいろいろ。例えば、複層ガラスは2枚のガラスの間に空気を密閉し

たもの。LOW-E（ローイー）と呼ばれるガラスは、冬場の断熱に加え、夏の強烈な日差しを50%以上カットします。

省エネ効果は高く、一般の複層ガラスでも、冬場の灯油代や夏場のエアコン代の削減にもなります。

また、一般的に窓枠はアルミで冬は結構冷たいのですが、プラスする内窓は樹脂製が多く、温かみがあります。

### 工事も簡単

でも、これから窓を作り直すのは大工事になる。マンションだから無理……。そんなことはありません。

既存の窓の内側に、もう一つの窓をプラスするので。カラーも複数あるので、素敵なインテリアを工夫できそうです。

そのようなリフォームができない場合でも、応急処置として断熱性の高いシートを貼り付ける方法があります。

見た目は悪くなりますが、透過性のある薄めのシートなら日光も通すため、窓の機能を確保しつつ効果を発揮します。暖かい空気が逃げやすい道を遮断し、足元まで暖かいお部屋にすることができま

す。冬の嫌な底冷えも、ちよつとした工夫で改善でき、光熱費も抑えられ家計の負担も減らせて足元も暖かくなります。

読売不動産では、読売グループ社員やOBの皆様にご希望と予算に合わせたご提案をさせて頂いております。お気軽にご連絡ください。

## 読売不動産

本社 東京都千代田区大手町 1-7-1 読売新聞ビル内 TEL (03) 3217-8309 FAX (03) 5200-1833  
大阪支社 大阪府大阪市北区野崎町 5-9 読売大阪ビル内 TEL (06) 6363-8055 FAX (06) 6316-1400